

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29222 プログラム名 寄生虫が溪流魚を育む！？ハリガネムシを通して自然をみてみよう



開催日： 2017年9月30日(土)

実施機関： 神戸大学

(実施場所) (京都大学フィールド科学教育研究セン

実施代表者： ター・森林ステーション・和歌山研究林)

(所属・職名) 佐藤拓哉

受講生： (神戸大学大学院理学研究科・准教授)

関連URL： 高校生1-2年生 11名(男3、女8)

【実施内容】

本プログラムは、ハリガネムシ類を通した森と川のつながりを例に、生物たちの不思議で多様なつながりを実体験として受講生に学んでもらうことを目的して実施された。

導入として、事前に自然河川に設置した水中ビデオカメラで、アマゴが摂餌行動をする姿をリアルタイムで受講者にみせた。続いて、申請代表者が、森と川の繋がりの大切さ、および申請代表者が発見したハリガネムシを通した森と川のつながりについてスライドと配布資料を用いて説明した。その後、受講者とともに研究林に立ち入り、ハリガネムシやその宿主(カマドウマ)のトラップを受講者に回収してもらって観察をした。さらに、河川で実際に溪流魚(アマゴ)の捕獲を行い、捕獲したアマゴに麻酔をかけて測定・個体識別をしたり、食べているものを吐き出させて食性を確認したりするなど、ハリガネムシを通した森と川のつながりを実体験として理解してもらった。

森林・河川での実習後には、再び講義室に戻り、プログラムを通して学習したことを確認しあった後、修了式を行った。修了式では、申請代表者から、参加者1人1人に修了証を授与した。

本プログラムについては、昨年度の反省を活かして、事前に県内外の中学・高校に実施チラシを配布するなどの広報努力をした結果、遠方にも関わらず、受講生11名とその保護者・引率教員4名の参加を得ることができた。参加者数が多いことから、安全確保や観察できる生物の確認など、入念に事前チェックを行い、実施協力者を8名とすることで、安全かつ円滑にプログラムを実施することができた。終了後に参加者や保護者からいただいたアンケートにおいては、プログラムの実施目標が十分に達成されたと判断できる内容の意見がみとれた。

以上のことから、本プログラムについては、当初の目的に沿って、適切に実施することができたと判断し、実施報告書を提出いたします。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 8名

【事務担当者】 福田 雄一(ふくだ ゆういち)・(神戸大学 研究推進課研究助成グループ・一般職員)